

株主の皆様へ

第165期第3四半期報告書
平成24年4月1日から平成24年12月31日まで

Logistics Information Technology

第3四半期(連結)のハイライト

	平成25年3月期第3四半期	平成24年3月期(参考)
営業収益	1,105億7,800万円 (前同期比+36.7%)	1,073億4,400万円
営業利益	42億4,100万円 (前同期比-16.3%)	67億3,100万円
経常利益	34億2,500万円 (前同期比-14.8%)	52億5,100万円
四半期(当期)純利益	-6億2,100万円	21億5,100万円
1株当たり四半期(当期)純利益	-5円00銭	17円32銭

<平成25年3月期の連結業績予想> 営業収益▶1,480億円 営業利益▶52億円 経常利益▶37億円 当期純利益▶29億円

目次

ごあいさつ	1
第3四半期(連結)の概況	2
トピックス	4
会社の概要	5
株式の状況	5

<注記>

この冊子においては、将来の見通しに関する記述が様々な表現でなされており、その見通しはリスクや不確実性に左右され、実際の結果と大きく異なることも考えられます。読者の皆様には、これらの将来に関する記述に過度に依存なさらないようお願いいたします。



代表取締役社長 藤岡 圭

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第165期第3四半期の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当第3四半期の日本経済は依然として厳しい状況で推移し、物流業界においても低調な荷動きが回復に至っておりません。こうした経済環境の中、当社の連結業績は、M&Aによりグループ企業となった三井倉庫エクスプレス株式会社及び三井倉庫ロジスティクス株式会社の業績が寄与し、営業収益は増加したものの、低調な荷動きによりコスト改善が進まず営業利益は減少しました。また、当社は資産の効率的活用と財務体質の改善を目的に保有資産の見直しを進めており、その一環として賃貸用オフィスビルを売却用不動産に用途変更したことから、当該不動産に対する減損処理を実施、その結果連結四半期純損失を計上しております。

当社は、事業基盤の強化に邁進し、高度かつ総合的な物流機能を有する企業グループへと進化を遂げています。そして、さらなる飛躍への態勢が整ったことを受け、2016年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画「MOVE 2013」を策定いたしました。

本中期経営計画では、世界規模で拡大と変化を続けるお客様の物流ニーズに的確に対応するためには、グローバル・サプライチェーン・マネジメントの機能を一段と強化することが不可欠との考えに基づき、「アジアパシフィックにおける成長領域への集中投資」、「プラットフォーム型サービスの開発と展開」、「資産ポートフォリオの最適化」という3つの事業方針を定めました。今後はこの方針のもと、物流需要の増大が見込まれる中国、タイ、インドネシアに倉庫を新增設し、保有する資産の構成を事業展開する領域に合せ最適化していくなど、諸施策を鋭意推進してまいります。

これら一連の取り組みによって、業績の着実な伸長と企業価値の持続的な向上をはかってまいりますので、株主の皆様には、こうした当社の考えをご理解いただき、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年3月

第3四半期(連結)の概況 (平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)

全般の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州や中国など海外経済の減速等を背景に輸出の対前年伸び率のマイナス基調が続き、また、鉱工業生産指数も下落基調で推移するなど、依然として厳しい状況が続いております。

物流業界におきましても、営業普通倉庫21社統計1~3類倉庫の保管残高は徐々に回復しつつあるものの、一方で、入庫高、貨物回転率は低調で推移するなど荷動きの回復には至っておりません。

こうした事業環境の中、当第3四半期連結累計期間の業績は、国内物流事業は保管残高は回復したものの、輸出入貨物を中心に取扱量が減少し、利益率も悪化したことなどから売上げは横ばいでしたが減益となりました。港湾運送事業は船腹の増加による航路の増強などにより増収となったものの、利ざやの縮小などから減益となりました。グローバルネットワーク事業は、北東アジア、東南アジアを中心に業績が回復しつつあり、全体では増収となったものの、業容拡大に伴う賃借料の増加などから減益となり、国際輸送事業は昨年6月より持分法適用関連会社としていたTASエクスプレス株式会社を、7月1日より旧株式会社三井倉庫エアカーゴと統合し連結子会社(現三井倉庫エクスプレス株式会社)としたことなどから、増収増益となりました。ロジスティクスシステム事業は、昨年4月より連結子会社となった三井倉庫ロジスティクス株式会社が寄与したことから増収増益となりました。BPO事業は新規顧客の獲得などもあり増収増益となりました。また、不動産事業においては、前期に資産効率改善の観点から賃貸物流施設を売却したことから減収減益となりました。

これらの結果、連結営業収益は前年同期比296億7千8百万円増の1,105億7千8百万円、連結営業利益は同8億2千2百万円減の42億4千1百万円、連結経常利益は同5億9千5百万円減の34億2千5百万円となりました。

また、資産の効率的活用及び財務体質の改善を目的として保有資産の見直しを進めており、その一環として、賃貸用オフィスビルを売却用不動産に用途変更したことから当該不動産に対する減損損失を当第3四半期連結累計期間において計

上したことなどにより、6億2千1百万円の連結四半期純損失(前年同期は32億6百万円の連結四半期純利益)を計上しております。

財政状態の変動状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、三井倉庫ロジスティクス株式会社の取得及びTASエクスプレス株式会社の株式を取得し株式会社三井倉庫エアカーゴと統合したことなどにより、全体としては前連結会計年度末比133億7千1百万円増加し、2,107億9百万円になりました。

純資産は、少数株主持分の増加などにより、前連結会計年度末比3億7百万円増加し、511億5千9百万円になりました。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額の増加や前期の固定資産売却に伴う仮払消費税の増加などから、全体として前年同期に比べ15億7千7百万円減の54億5千5百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、三井倉庫ロジスティクス株式会社、TASエクスプレス株式会社の株式取得や西神戸事務所建設等に係る支出があったことから、313億5千7百万円の支出となり、前年同期に比べ317億1千9百万円の支出増となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行や長期借入による収入があった一方で借入金の返済があったことから88億7千6百万円の支出となり、前年同期に比べ55億5千9百万円の支出増となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、新規連結に伴う現金同等物23億9千4百万円の増加はあったものの、全体では前連結会計年度末より323億7千1百万円減の195億6千3百万円となりました。

単位：百万円(百万円未満切捨)

	第1四半期 (3ヵ月累計)	第2四半期 (3ヵ月累計)	第3四半期 (3ヵ月累計)	第3四半期 (9ヵ月累計)	第4四半期予想 (3ヵ月累計)	通期予想 (平成25年3月期)	前通期実績 (平成24年3月期)
営業収益	34,271	37,629	38,677	110,578	37,421	148,000	107,344
営業利益	1,242	1,144	1,854	4,241	958	5,200	6,731
経常利益	1,078	768	1,578	3,425	274	3,700	5,251
当期純利益	295	632	△1,549	△621	3,521	2,900	2,151

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第3四半期末 平成24年12月31日	前期末 平成24年3月31日
(資産の部)		
流動資産	50,505	71,733
固定資産	160,204	125,604
有形固定資産	108,795	99,992
無形固定資産	31,525	8,071
投資その他の資産	19,883	17,540
資産合計	210,709	197,338
(負債の部)		
流動負債	61,937	47,589
固定負債	97,612	98,896
負債合計	159,550	146,485
(純資産の部)		
資本金	11,100	11,100
資本剰余金	5,563	5,563
利益剰余金	32,173	34,002
自己株式	△99	△99
<small>その他有価証券評価差額金</small>	2,278	2,101
繰延ヘッジ損益	2	—
<small>為替換算調整勘定</small>	△2,608	△2,532
少数株主持分	2,749	716
純資産合計	51,159	50,852
負債純資産合計	210,709	197,338

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第3四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年12月31日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年12月31日まで
少数株主損益調整前四半期純利益又は純損失(△)	△521	3,243
その他の包括利益	138	△644
<small>その他有価証券評価差額金</small>	160	△274
繰延ヘッジ損益	2	—
<small>為替換算調整勘定</small>	△55	△350
<small>持分法適用会社に対する持分相当額</small>	31	△20
四半期包括利益	△383	2,598
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△518	2,603
少数株主に係る四半期包括利益	135	△4

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第3四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年12月31日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年12月31日まで
営業収益	110,578	80,900
営業原価	96,192	69,589
営業総利益	14,386	11,310
販売費及び一般管理費	10,145	6,246
営業利益	4,241	5,064
営業外収益	1,266	515
営業外費用	2,081	1,558
経常利益	3,425	4,020
特別利益	572	2,445
特別損失	4,176	762
税金等調整前四半期純利益又は純損失(△)	△179	5,704
法人税等	342	2,460
少数株主損益調整前四半期純利益又は純損失(△)	△521	3,243
少数株主利益	99	36
四半期純利益又は純損失(△)	△621	3,206

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第3四半期累計 平成24年4月1日から 平成24年12月31日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,455	7,032
投資活動によるキャッシュ・フロー	△31,357	362
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,876	△3,317
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△161
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△34,766	3,916
現金及び現金同等物の期首残高	51,934	17,361
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	2,394	—
現金及び現金同等物四半期末残高	19,563	21,277

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

TOPICS

中期経営計画「MOVE 2013」がスタート ～3つの重点施策で、グループの総力を結集し、さらなる成長へ～

物流業界を取り巻く環境が厳しい中、当社グループは事業基盤の整備と収益力の一層の強化に取り組んでまいりました。医薬品や治験薬を含むヘルスケア商品を専門に扱う倉庫の稼働開始や、M&Aによる航空利用運送事業ならびに3PL事業の拡充など、戦略的な諸施策を推進した結果、当社グループの物流機能は格段に高度化し、国内外で横断的・総合的な物流サービスの提供が可能となりました。

当社グループは、こうした事業体制の拡充を基盤に、このたび2016年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画「MOVE 2013」を策定いたしました。本計画では、「アジアパシフィックにおける成長領域への集中投資」、「プラットフォーム型サービスの開発と

展開」、「資産ポートフォリオの最適化」を事業方針の柱としております。アジアパシフィック地域への投資については、重点地域の事業基盤を一層強化すべく、インドネシア、タイ、中国（上海）に新たな物流施設を建設することを決定いたしました。また、資産ポートフォリオの最適化については、事業展開に合せ、資産の入替えなどを行っております。

グループの総力を結集し、独創的で価値ある変革を推し進めるとともに、引き続きお客様の課題解決に全力を傾注することで、さらなる成長と最終年度の目標数値（売上高1,800億円、営業利益110億円）達成を目指してまいります。

3つの重点施策

アジアパシフィックにおける
成長領域への集中投資

プラットフォーム型サービスの
開発と展開

資産ポートフォリオの最適化

2016年3月期 最終年度目標数値

売上高

1,800億円

営業
利益

110億円

会社の概要

- 商 号 三井倉庫株式会社
(英文社名：MITSUI-SOKO Co., Ltd.)
- 設 立 明治42年(1909年)10月11日
- 主な営業種目 倉庫業
港湾運送業
国内運送業
国際運送取扱業
不動産賃貸業
- 資 本 金 11,100,714,274円
- 従 業 員 806名(他に出向者71名)
(平成24年
12月31日現在)
- 取 締 役
 - 取 締 役 会 長 田村 和男
 - 代 表 取 締 役 社 長 藤岡 圭
 - 取 締 役 副 社 長 嶋山 二郎
 - 代 表 取 締 役 常 務 取 締 役 碓 誠
 - 代 表 取 締 役 常 務 取 締 役 中谷 幸裕
 - 常 務 取 締 役 武隈 壮治
 - 常 務 取 締 役 田原口 誠
 - 取 締 役 (上級執行役員) 道瀬 英二
 - 取 締 役 (上級執行役員) 池田 求
 - 取 締 役 (上級執行役員) 矢川 康治
 - 社 外 取 締 役 (非常勤) 深津 泰彦
 - 社 外 取 締 役 (非常勤) 内田 和成
- 監 査 役
 - 常 任 監 査 役 (常勤) 笹尾新一郎
 - 社 外 監 査 役 (常勤) 大久保慶一
 - 社 外 監 査 役 (非常勤) 竹山 哲夫
 - 社 外 監 査 役 (非常勤) 須藤 修
- 執 行 役 員
 - 上 級 執 行 役 員 五十嵐俊一
 - 執 行 役 員 高遠 健治
 - 執 行 役 員 小笠原 審
 - 執 行 役 員 後藤 大輔
 - 執 行 役 員 小川 良司
 - 執 行 役 員 宮島 義明
 - 執 行 役 員 池田 隆二

株式の状況 (平成24年12月31日現在)

- 発行済株式の総数……124,415,013株(前四半期末比 増減なし)
- 株主数……………7,429名(前四半期末比-50名)

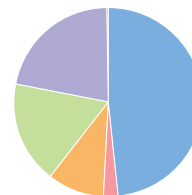
● 大株主(上位10名)

氏 名	所有株式数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,136	8.1
三井生命保険株式会社	9,546	7.7
三井住友海上火災保険株式会社	7,697	6.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,305	5.1
クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ)リミテッド ビービー・オムニス クライアント アカウント	3,956	3.2
株式会社三井住友銀行	3,484	2.8
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ノーザン トラスト ガンジー アイリッシュ クライアント	3,389	2.7
三井倉庫従業員持株会	3,129	2.5
株式会社竹中工務店	2,484	2.0
三井住友信託銀行株式会社	2,187	1.8

(注)千株未満の株式数は切り捨てて表示しております。
出資比率は自己株式を控除して算出しております。

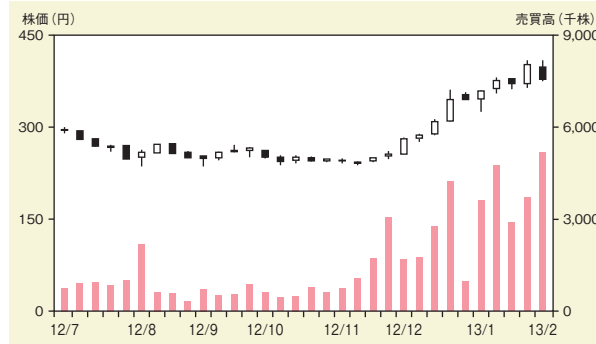
● 所有者別分布状況

金融機関	60,443千株	48.6%
証券会社	2,890千株	2.3%
国内法人	12,157千株	9.8%
外国人	21,741千株	17.5%
個人・その他	26,959千株	21.7%
当社(自己株式)	223千株	0.2%



● 株価及び売買高の推移(東京証券取引所)

(証券コード9302)



● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬に開催
同総会における議決権行使株主基準日	基準日現在1単元(1,000株)以上を有する株主
	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第1部)、大阪証券取引所(市場第1部)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先 (郵便物送付先、電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話(フリーダイヤル)0120-782-031
同取次窓口 公告方法	三井住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 電子公告により、以下の当社ホームページに掲載いたします。 http://www.mitsui-soko.co.jp/

■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設された株主様は、三井住友信託銀行株式会社(上に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。

■ 未払配当金の支払のお申出先について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社(上に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。